



ベ  
ー  
ト  
ー  
ヴ  
ェ  
ン  
と  
  
空  
想

デュオコンサート

黒川 侑大 & 佐藤 彦大

ロマン派の小品と新古典派の組曲を巡って  
Op.23と24-ヴァイオリンソナタ4番から  
傑作スプリングソナタへ至る  
新たな眼差し——

©平松郁夫

2019年

7月21日(日)

開場18:30/開演19:00 入場料:会員3,500円/  
一般4,000円/学生2,000円(全席自由席)

program

L.v. ベートーヴェン: ヴァイオリン・ソナタ 第4番 Op.23

C. シューマン: 3つのロマンス Op.22

I. ストラヴィンスキー: イタリア組曲

R. シューマン: 3つのロマンス op.94

L.v. ベートーヴェン: ヴァイオリン・ソナタ 第5番 '春' Op.24

\*プログラム等は、やむを得ない事情により 変更になる場合がございます。



©Kazashito Nakamura



# 黒川 侑 & 佐藤彦大

## デュオコンサート

2019年

7月21日(日)

開場18:30/開演19:00 入場料:会員3,500円/  
一般4,000円/学生2,000円(全席自由席)

123  
Mitake Sayaka Salon (vol.36)

ロマン派の小品と新古典派の組曲を巡ってOp.23と24ーヴァイオリンソナタ4番から傑作スプリングソナタへ至る新たな眼差し



黒川 侑 (くろかわ ゆう) Violin

2006年日本音楽コンクール第1位、岩谷賞(聴衆賞)他3つの特別賞を受賞。

2015年ドルフォリビッツァー国際ヴァイオリンコンクールにてAnna Picciulin特別賞、2016年仙台国際音楽コンクールにて聴衆賞を受賞。

これまでにスイス・ロマン管弦楽団、スペイン国立管弦楽団を始めとする国内外のオーケストラとの共演、リサイタルなど多くの演奏会に出演。京都市交響楽団定期演奏会(広上淳一氏指揮)での演奏がCD「名曲ライブシリーズ」に収録、リリースされた。

また国際音楽祭ヤング・ブラハに招待され、ファイナルコンサート(ドヴォルザークホール)で、ブラハ室内交響楽団と共演。音楽祭の名譽総裁、ヨゼフ・スーク氏に絶賛された。その後再度招待され、ワルシュタイン宮殿を始め、チェコ各地で演奏会に出演して高い評価を受ける。

工藤千博、P・ヴェルニコフ、漆原啓子、堀米ゆづ子、藤原浜雄、S・ルセフの各氏に師事。

これまでに倉敷市芸術文化奨励章、岡山芸術文化賞グランプリ、音楽クリティック・クラブ賞奨励賞、京都府文化賞奨励賞、京都市芸術新人賞、青山音楽賞、出光音楽賞を受賞。

ベートーヴェンは昔から、僕の最も好きな、心から尊敬する作曲家の一人です。それだけに、その10曲の素晴らしいヴァイオリンソナタには挑戦することに二の足を踏むことも多いのですが、実際に少しずつ曲に触れていくと、その本当に充実した、人間の心に溢れるような音楽に、演奏していつもこれ以上ない幸せを感じます。今回の演奏会は『ベートーヴェンと空想』という題名で、僕自身その魅力を、いつもと違う角度で見つけることができたいという思いでプログラムを組みました。

今回プログラムの中心に選んだのは、そんなベートーヴェンのソナタでも最も知名度が高い第5番「春」と、その同時期(1801年頃)に作曲された第4番の2曲です。そのころ30代に差し掛かったベートーヴェンは、翌年には有名なハイリゲンシュタットの遺書を残すことになる、耳の病が重く進行している時期でしたが、にもかかわらず、有名な「月光」や「テンペスト」、交響曲第2番のような、それまでにない新たな作品様式を追求していった時期でもありました。この2曲のヴァイオリンソナタに関しても、それまでの時代とは違いヴァイオリンをピアノと対等な立場に引き上げ、「春」においては一般的だった3楽章形式を4楽章へと拡大しています。

「春」という表題はどうかやベートーヴェン自身の命名ではないようですが、その柔らかく暖かな雰囲気、確かにその名前は相応しいと思います。しかし僕は個人的に、曲に触れていくにつれ段々と、それだけでは取まらないベートーヴェンの独特の、驚かせるような、また深淵な表情が曲のあちこちに感じられるようになってきました。「春」は当初同じ作品番号として出版が考えられていた、悲劇的なベートーヴェンの心理状態を映す、半ば熱にうかされるようなヴァイオリンソナタ第4番とは違って演奏されることも多いですが、このプログラムではその2曲の間に、空想や幻想の遊びのようなロベルトとクララ・シューマン夫妻のロマンスと、パレ音楽からの編曲であるストラヴィンスキーの組曲を演奏します。そのような曲をベートーヴェンの合間に行き来することで、比較的聴く機会の限られる第4番と、多彩な「春」の表情を、特に演奏者との距離の近いこういったサロンで、お聴きくださる皆さんと新たに発見することができれば、それは僕にとって大きな喜びです。

共演するピアニストは佐藤彦大さんです。以前に一度だけ共演したことがあるのですが、今回このようにまた一緒に演奏ができる機会になり、とても嬉しいです。(黒川 侑)



佐藤 彦大 (さとう ひろお) Piano

盛岡市出身。東京音楽大学大学院器楽専攻鍵盤楽器研究領域(ピアノ・エクセレンス)修了、ベルリン芸術大学及びモスクワ音楽院にて研鑽を積む。2009-2012年ローム・ミュージック・ファンデーション、2013・2015年度明治安田クオリティオブライフ文化財団奨学生。2004年第14回日独青少年交流コンサートに出演、翌年には招待演奏者としてドイツ各地での演奏会に出演。2008年第17回国際音楽祭「ヤング・ブラハ」に出演。2009年広上淳一指揮/東京音楽大学シンフォニーオーケストラのヨーロッパツアー、2012年小泉和裕指揮/仙台フィルハーモニー管弦楽団の東北ニューイヤークンサートツアーにソリストとして同行。その他、大友直人指揮/東京交響楽団、小林研一郎指揮/日本フィルハーモニー交響楽団、広上淳一指揮/京都市交響楽団、L.グヴィオッティ指揮/ビルバオ交響楽団、V.P.ベレス指揮/テネリフェ交響楽団等、国内外の主要オーケストラと共演。室内楽ではNHK交響楽団首席メンバーをはじめ久保陽子(VI)、二村英仁(VI)の各氏等と共演している。

主要なリサイタルは、2011年東京文化会館小ホール、2013年紀尾井ホール、2016年浜離宮朝日ホールにて行われ、各誌で好評を博した。また、NHK-FM「名曲リサイタル」「リサイタル・ノヴァ」に出演。日本各地をはじめスペイン・ロシア・ドイツ・イタリア・フランス・チェコ・中国で演奏活動を行っている。現在東京音楽大学講師として後進の指導にあたり、ミロンコンサート協会所属アーティスト。



大ホールのプラチナ席をしのご  
“美竹清花さろんという楽器”の中で  
味わう一期一会

世界に羽ばたく才能あふれる  
トップアーティストが続々と集結。

日本のトップクラスの若手演奏家が、  
こだわり抜いた価値ある企画をお届けしていきます。  
美竹清花さろんが追求する“本物の音楽”は、  
演奏者と参加者とわたしたちの、  
三位一体の努力と対話から生まれます。

誕生。  
クラシック音楽サロン、  
宮益坂、  
渋谷駅 徒歩2分



●お問い合わせ

株式会社 ILA (美竹清花さろん)  
東京都渋谷区渋谷1-12-8 (〒150-0002)  
☎ 03-6452-6711 (平日9:00-18:00)  
070-2168-8484 (時間外可)  
Fax 03(3409)0188

